様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６９０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２７０３

研究課題名（和文）ティフィナグ文字を併記した『ベルベル語辞典（日本語-タマズィグト語）』を編纂する

研究課題名（英文）Compilation of Japanese-Berber Dictionary with Tifinagh Script

研究代表者
石原　忠佳（Ishihara, Tadayoshi）

創価大学・文学部・教授

研究者番号：１０２３２３３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：ティフィナグ文字を併用したベルベル語辞典編纂のため、スペイン国立グラナダ高等学術研究所図書館（CSIC）および在モロッコ　テトゥアンAbdelmalek Essadi大学付属レルチュンディー研究所図書館の二ヶ所を研究拠点とし、①館内に蔵書として保存された写本を比較対照し、ティフィナグ文字に関する独自のデータを構築した。②次に北モロッコのリーフ山地一帯で調査を実施し、ティフィナグ文字で刻まれた碑文を検証した。③そのうち解読可能なものを選別し、文字の変種（バリアント）を記録した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
世界には多くの言語があるが、それらすべての言語の辞典が編纂されているわけではない。その理由にはまず、話者数がきわめて少ないこと、さらには文字を持たない話し言葉であることなどがあげられよう。ベルベル語もこうした言語の一つとされてきたが、実際には独自の文字を持っていることが、２０００年以降は明らかになった。本研究の最終的目標は、各地で話されているベルベル語変種を総括し、ティフィナグ文字を併記したベルベル語辞典を刊行することである。こうした試みは、少数言語の研究に携わる研究者にとって、今後新しい方向性を示せると考えている。

研究成果の概要（英文）：The main purpose of this project is to edit a Berber language dictionary with "Tifinagh" scripts. Therefore, I have chosen the Higher Council for Scientific Research (CSIC) and the "Lerchundi" Library dependent on the Abdelmalek Essadi University in Morocco as two headquarters of my research.
I preferred to stress following three viewpoints in relation to my work: 1) Build original data, comparing the manuscripts stored in the library. 2) I conducted surveys in the Rif Mountains located in northern Morocco to verify inscriptions inscribed in "Tifinagh" scripts. 3) I selected among these inscriptions those that could be decipher

研究分野：Comparative Linguistics

キーワード：ベルベル語辞典　モロッコ　Amazigh　Tamazight　Tarifit　Tashelait

１．研究開始当初の背景

1990 年以前はいわゆる第三世界に対して、さしたる関心を示すことのなかった我が国とは対照的に、多民族が共存する西欧諸国では既に 80 年代に、様々な少数民族のアイデンティティーや言語をめぐる問題が取り上げられていた。しかしながら、本邦において近年まで実施されてきた「ベルベル」に関する研究は、ムラービト朝（1050～1147）とその後のムワッヒド朝（1130～1269）の役割を、歴史的観点から探るものが主流であり、ベルベル語自体の言語学的考察はほとんど顧みられなかったといえよう。また古代には北アフリカ広範囲で使用されていたベルベル語の領域が、現今ではごく限られた地域に縮小されてしまった事実も、その言語学的研究を低迷させた要因の一つであろう。このような状況を鑑みて２０１４年３月、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の助成を得て、拙著『ベルベル語とティフィナグ文字の基礎 －タリーフィート語入門―』の刊行に至った。それ以来、筆者のもとには多くの問い合わせが寄せられている。国際アラビア語方言学学会(AIDA)が４年に一度開催する国際会議での拙著の紹介をはじめとして、フランス国立東洋言語文化研究所(INALCO)やモロッコ王立アマズィグ文化研究所(IRCAM)(などベルベル言語文化研究を手がける研究機関からの書面やメールである。その多くは拙著の翻訳を打診したものであるが、消滅危機言語をテーマとした基調講演の依頼もある。今日までティフィナグ文字を併記した文法書の類はほぼ皆無であったことから、本書の内容を世界の主要言語で把握しておくことが、言語研究に携わる研究者にとって当面の関心事となったのかもしれない。こうした多方面からの要望に応じて、ティフィナグ文字を併記したベルベル語辞典の編纂が当面の課題となってきた。

２．研究の目的

本研究の目的は、ポエニ文字から古代リビア文字を経て派生したとされるベルベル文字（ティフィナグ文字）の変遷をたどり、最終年度にティフィナグ文字とラテン文字を併記したベルベル語辞典を編纂することである。その理由として、①ベルベル語は北アフリカ全体で約 2500 万人の話者を抱えているにもかかわらず、ベルベル語をティフィナグ文字で表記した辞典が本邦では今日まで刊行されていないこと。②これまで「ベルベル語は綴られることのない話し言葉である」と認識され、文字として書きとどめられることがなかったこと。③ベルベル語の使用地域は北アフリカ各国に飛び地的（Enclave）に散在しているため、どの地域の言葉を「ベルベル語」として定義するかが困難であったこと。④また作業の一環として、2019 年３月をめどに、既刊の拙著『ベルベル語とティフィナグ文字の基礎』のフランス語への翻訳を計画している。

３．研究の方法

第1期　　2016 年 8 月 1 日～2016 年 12 月 20 日

第１期には、スペイン高等学術研究所（CSIC）,[所在地 Cuesta del Chapiz 21, Granada]において、かつてアルジェリアやチュニジアを支配したベルベル系王朝、ザイヤーン朝(1236-1550))

の歴史を再考し、ザナータ系ベルベル語がどのような過程を経て、今日のムザブ系細分化方言(Tumzabit)やシャウヤ系細分化方言（Tashawit）の形態に至ったのかを検証する。

次に、同図書館に保存された古文書を閲覧し、チュニジアのハフス朝支配下で育った Ibun Kaldun 著作に焦点を定めて、歴史言語学的側面からザナータ系ベルベル人の痕跡を探る。

第2期　2017 年 1 月 10 日～2017 年 3 月 20 日

2016 年度、第 1 期の段階で明らかになった事実から、ザナータ系ベルベル人の言語がどのような変遷を経て、今日アルジェリアの Ghardaiya 周辺で話されているベルベル語（Tumzabt）や Ouargla のベルベル語（Twargrit）の形態に移行したかを推定する。以下二つの史料を比較対照する

第 3 期　2017 年 8 月 1 日～2017 年 9 月 15 日

中部モロッコ・中アトラス山地の Kenifra 周辺のベルベル語使用地域を調査してその成果を整理し、「在ラバト モロッコ国立ベルベル文化研究センター」(Institut Royal de la Culture Amazighe)の蔵書を閲覧して、調査結果の整合性を検証した。資料の分析には el Barkani Boucra 教授の立会いをお願いする。

レルチュンディー研究所図書館の Mohammed Tahrouchi 司書の協力を得て、ベルベル語話者は自らのメッセージを書きとめるため、どのような手段を用いるかを判別する作業に入る。①アラビア語を使用するのか。②ベルベル語自体をアラビア文字で表記するのか。③かつて保護領下にあった時代のフランス語、もしくはスペイン語などの外国語を書き言葉として選択するのか。こうした点を明らかにする目的で、テレビやラジオなどのメディアの普及で、日常生活におけるどのようなベルベル語の語彙が、借用語としてフランス語やアラビア語に取って代わられたのかを、把握する

第 4 期　2018 年 2 月 15 日～2018 年 3 月 25 日

今回の研究協力者である 21 世紀リーフ・ベルベル協会（Asociación Siglo XXI）Yassin Errahmouni 会長の所属先である Alhucemas のスペイン教育省付属図書館(Instituto Español de “Melchr Jovellanos”)を拠点として、Clive W.McCClelland 著『タリーフィート語辞典』*A Tarifit Berber-English Dictionary*（2004） に示されたティフィナグ文字の表記上の問題点を検証する。

第 5 期　2018 年 8 月 1 日～9 月 15 日

ベルベル語辞典編纂の準備段階として、平成27年度までにタリーフィート語西部方言として Alhucemas周辺の言葉を中心に収集した語彙を参照し、Melilla や Nador を中心とした地中海沿岸のフィールド・ワークを通して、東部地域で話されている語彙を文字化する作業を実施する。そしてズィール朝の変遷をさかのぼってゼナータ族が使用していたベルベル語の素性を検証する。

第 6 期　2019 年 2 月～2019 年 3 月 25 日

辞典編纂で以下の音韻を表記する際に、いずれのティフィナグ文字が対応しているのかを確認する最終作業を実施する。

またスペイン国立カディス大学哲文学部で３月に開催予定の報告会（Jorge Aguade 主幹 アラブ学研究所）に、研究協力者である 21 世紀リーフ・ベルベル協会の Yassin Errahmouni 会長を招聘し、その折に、会長の協力を得て、ベルベル語辞典編纂に必要と思われるベルベル語の語彙を品詞別に整理し、それらを国際音声記号(IPA)とティフナグ文字で併記する作業を開始する。

４．研究成果

ベルベル語辞典編纂の準備段階として、平成 27 年度までにタリーフィート語西部方言として Alhucemas 周辺の言葉を中心に語彙を収集してあったが、今回は Melilla や Nador を中心とした地中海沿岸のフィールドワークを通して、東部地域で話されている語彙を文字化する作業を実施した。

さらに、辞典編纂で以下の音韻を表記する際に、いずれのティフィナグ文字が対応しているのかを確認する最終作業を行い、どの地域のベルベル語変種において、①有声両唇摩擦音［β］ ②有声歯間摩擦音［d̠］③無声歯間摩擦音［t̠］ ④無声声門摩擦音［h］と無声咽頭摩擦音［ḥ］が、ティフィナグ文字で表記する際にその素性を区別するのかを具体的に確認できた。長年取り組んできた『ベルベル語辞典』の編纂にあたって、現時点までに取り上げた項目別語彙は、全体のほぼ７０％を完成しているが、「植物」「生物「香辛料」「農業用品」などの項目に、ベルベル語には存在して、日本語にはないものも少なくない。こうした語彙も辞典に取り入れる目的で、今後はリーフ山脈東部のアルジェリアとの国境地帯を中心にフィールド・ワークを実施し、さらなるバリアントを収集しなければならない。

５．主な発表論文

雑誌論文（計　２　件）

１．著者名 石原 忠佳	４．巻
２．論文標題 「ベルベル語」	５．発行年 2017 年
３．雑誌名 リレーエッセイ 「ことば紀行」３０回　白水社	６．最初と最後の頁
１．著者名 石原 忠佳	４．巻 ９巻
２．論文標題 「消滅危機言語としてのベルベル語」	５．発行年 2016 年

３．雑誌名	６．最初と最後の頁
『創価人間論集』	１－１７

学会発表（計　６　件）

１．発表者名 石原 忠佳
２．発表標題 Los retos de los universitarios en un mundo en cambio 世界の大学の今：改革を求めた学生たちの挑戦
３．学会等名 Foro Internacional Universitario　　Université Abdelmalek
４．発表年 ２０１８年　３月

図書　　（計　２　件）

１．著者名	４．発行年
大城道則（編著）、山田重郎、高橋秀樹、平野みか、青木真兵、比佐篤、山下真里亜、蔀勇造、石原忠佳、小澤実、森雅英、角道亮介、青山和夫	２０１８年
２．出版社 河出書房新社	５．総ページ数 １２７ページ
３．書名 「ティフィナグ文字」『古代文字入門』	
１．著者名 山岡政紀・伊藤貴雄・蝶名林亮（編著）、坂井孝一、渋谷明子、西川ハンナ、季武嘉也、石原忠佳、アネメッテ・フィスカーネルセン、寒河江光徳、井上大介、岩川幸治、宮本輝、森淑仁、古川智映子、佐藤優	４．発行年 ２０１８年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 １２７ページ
３．書名 「今世界の言語は」『ヒューマニズムの復興を目指して』	

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます